



The Heart of Industry

**IWAKI**

# 2018年3月期決算説明資料

2018年5月25日

株式会社イワキ

証券コード：6237  
銘柄名：イワキポンプ

# 目次

<b>I. 2018年3月期 決算概要</b>	<b>・・・P 3</b>
<b>II. 2019年3月期 業績見通し</b>	<b>・・・P13</b>
<b>III. 第一期～第二期 中期経営計画について</b>	<b>・・・P19</b>
<b>IV. 参考情報</b>	<b>・・・P29</b>





# 2018年3月期 決算概要

(百万円)

	2017/3期	2018/3期		2018/3期 予算
		金額	前年比	
売上高	25,146	28,067	+11.6%	28,141
売上総利益	8,175	9,409	+15.1%	9,492
(粗利率)	(32.5%)	(33.5%)	(+1.0pt)	(33.7%)
営業利益	1,465	2,106	+43.8%	2,062
(営業利益率)	(5.8%)	(7.5%)	(+1.7pt)	(7.3%)
経常利益	2,136	2,733	+27.9%	2,691
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,690	2,059	+21.8%	2,091
1株当たり 当期純利益(円)	225.93	275.16	+21.8%	279.47
為替レート	ドル	108.81	112.17	107.00
(期中平均)	ユーロ	120.30	126.70	128.00

2018年3月15日公表

## 1 売上高は前年比プラス

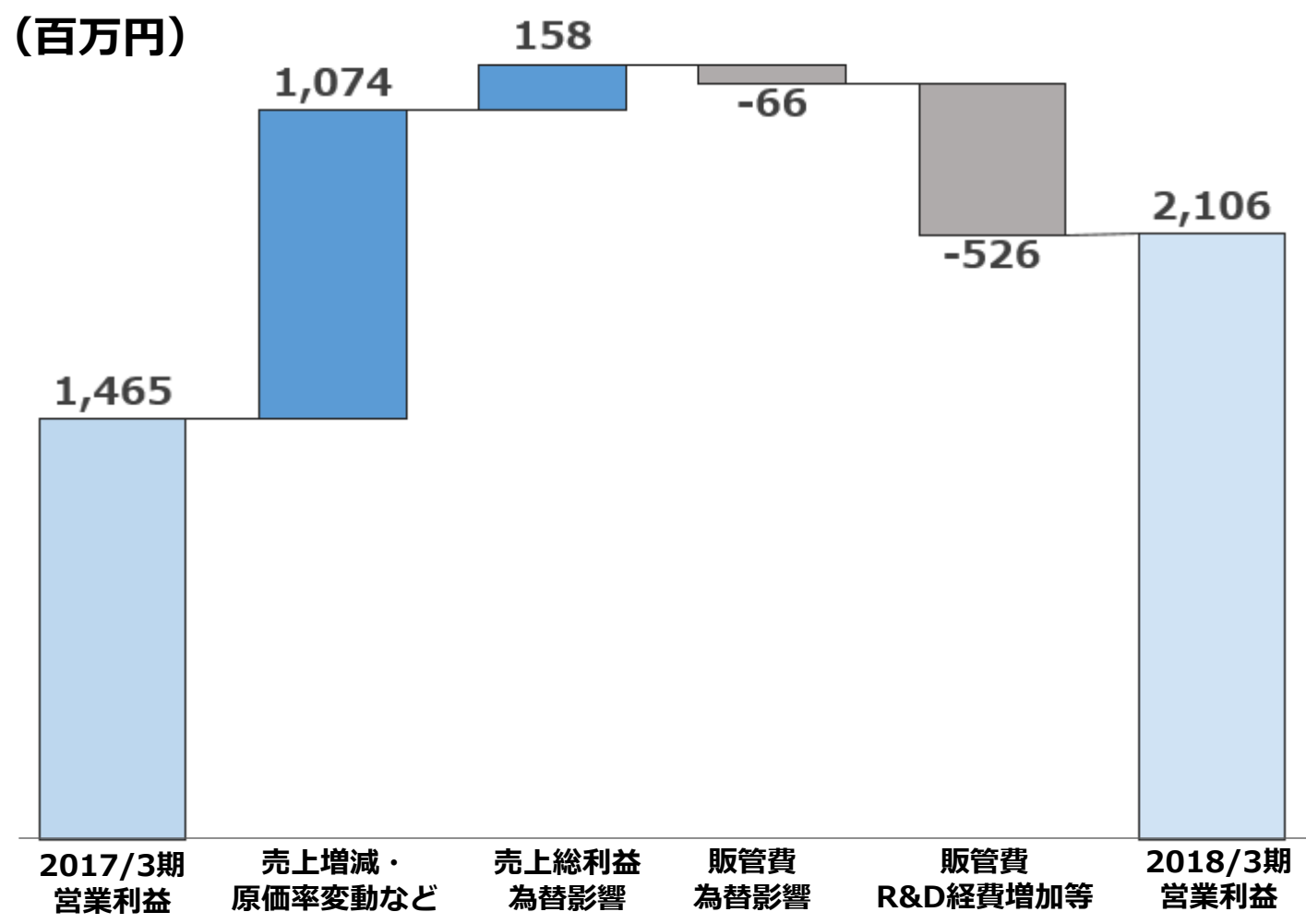
- ✓半導体・液晶市場、表面処理装置市場への設備投資がけん引し、アジア地域は前年比で大幅増
- ✓中国は、医療機器市場の需要増等で前年比で3割強増
- ✓欧州地域で新エネルギー市場の需要拡大

## 2 営業利益は前年比大幅プラス

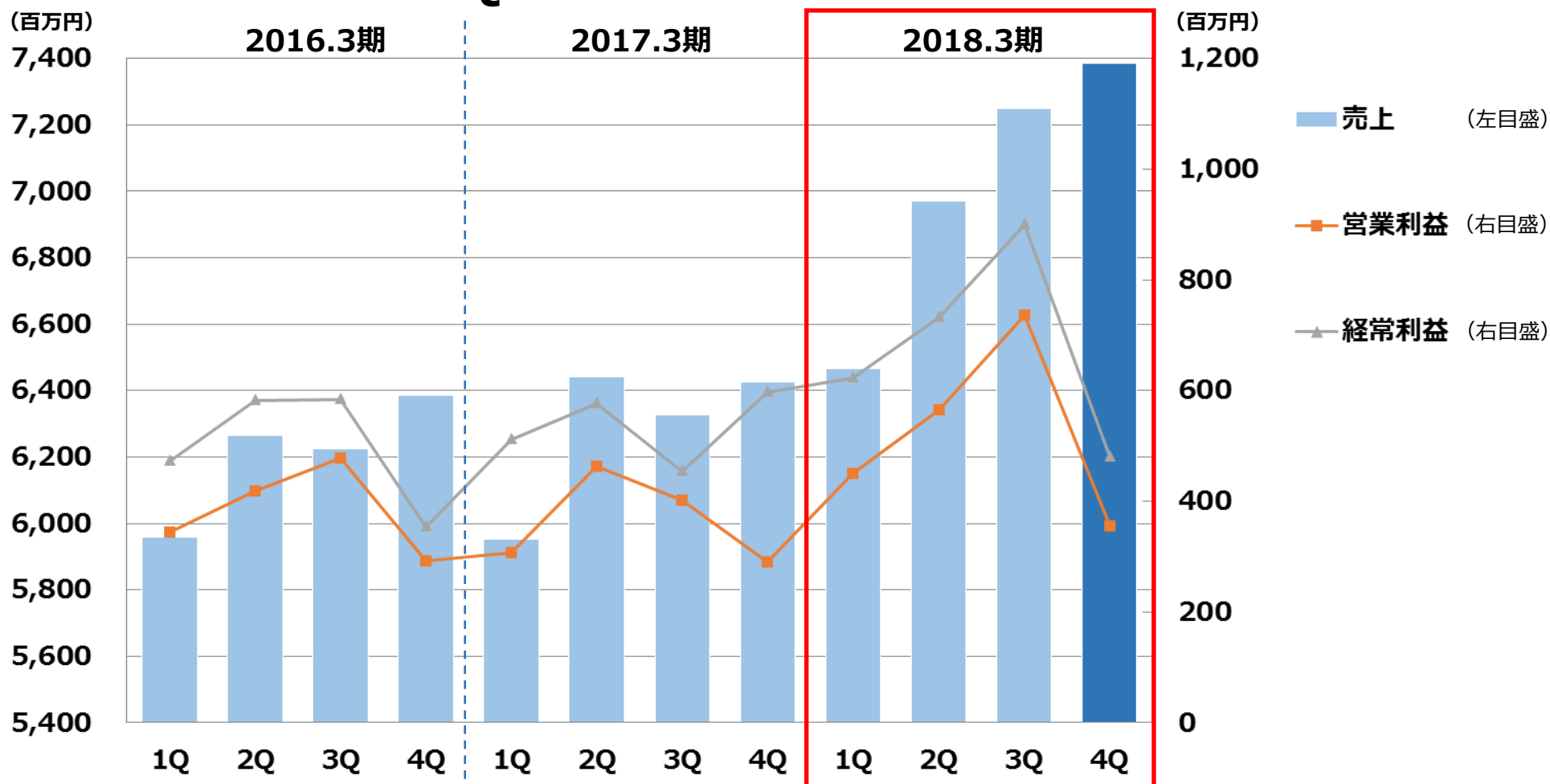
- ✓売上増による増収効果
- ✓利益率が良い主力製品のマグネットポンプ、定量ポンプの堅調な伸び

## 3 経常利益は前年比プラス、親会社株主に帰属する当期純利益はマイナス

- ✓前年の特殊要因が消え為替差益が減少するもアジア中心に関係会社の好調が続き、経常利益は増益
- ✓法人税等の見込みよりも実績値が増加

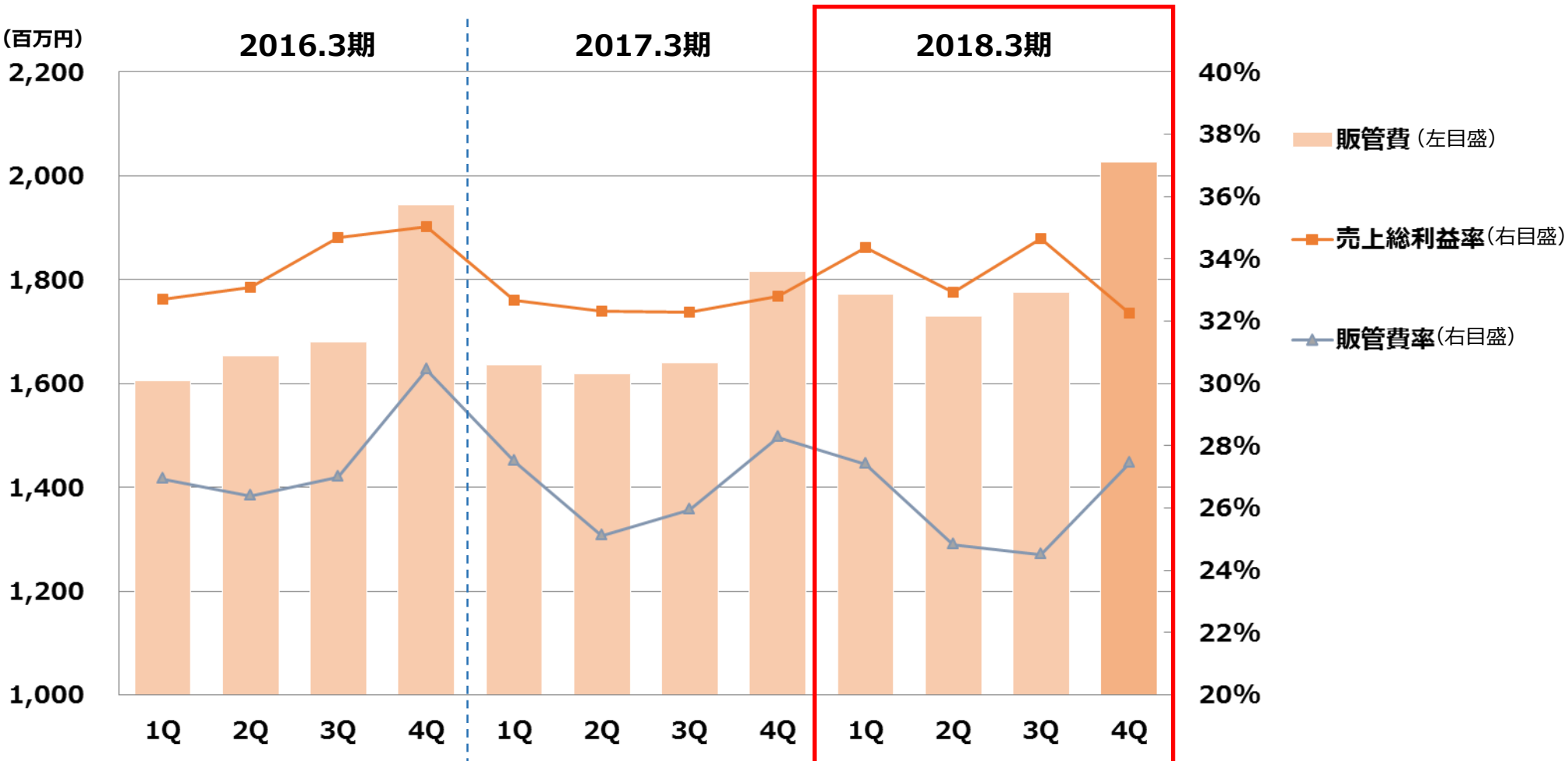


- ・半導体・液晶市場向け等がけん引し、売上、段階利益ともに好調
- ・好業績に伴う4Qの人件費が増加



※ 2016/3期第1四半期、第2四半期は、連結財務諸表を未作成のため参考値となります。

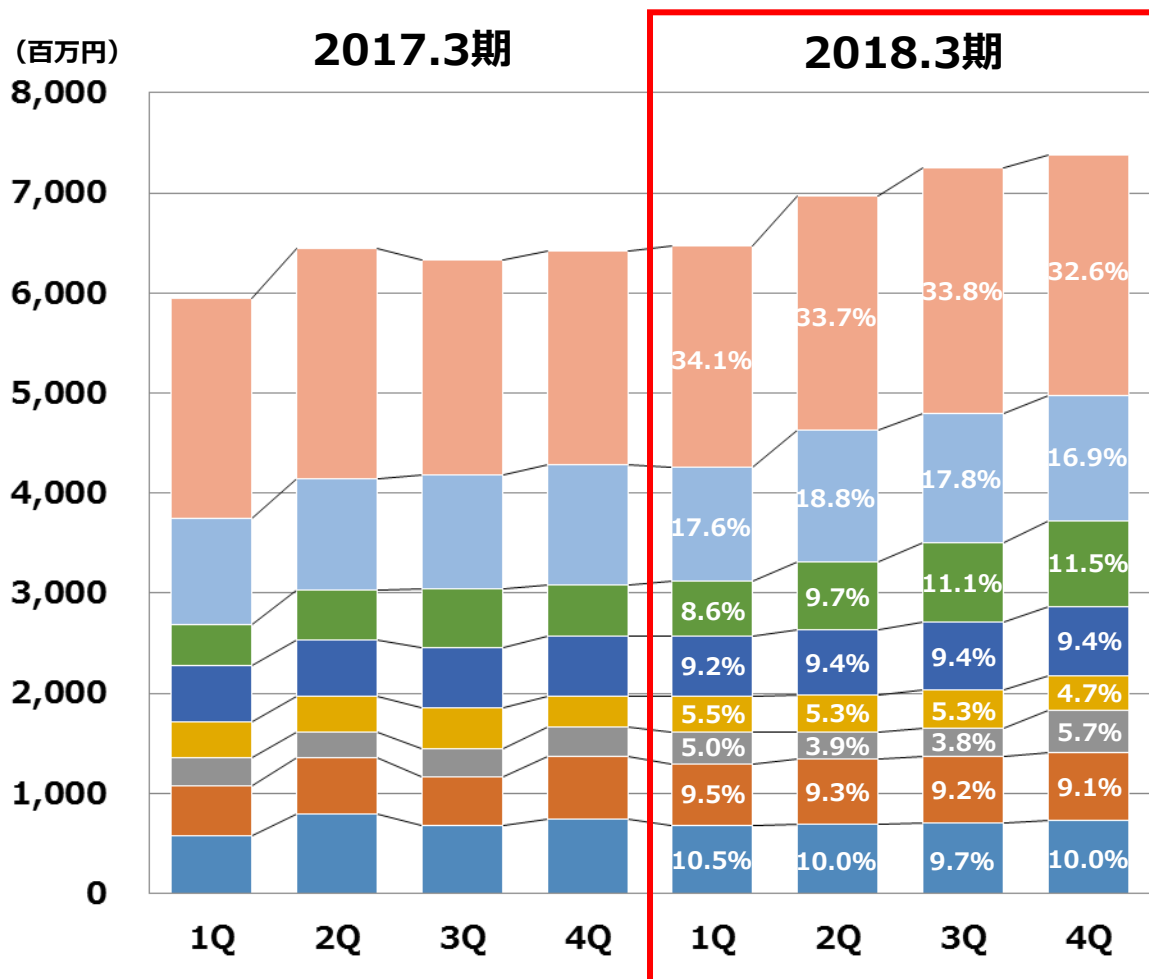
## 増収効果で販管費率が低下。引続き、粗利率良



※ 2016/3期第1四半期、第2四半期は、連結財務諸表を未作成のため参考値となります。

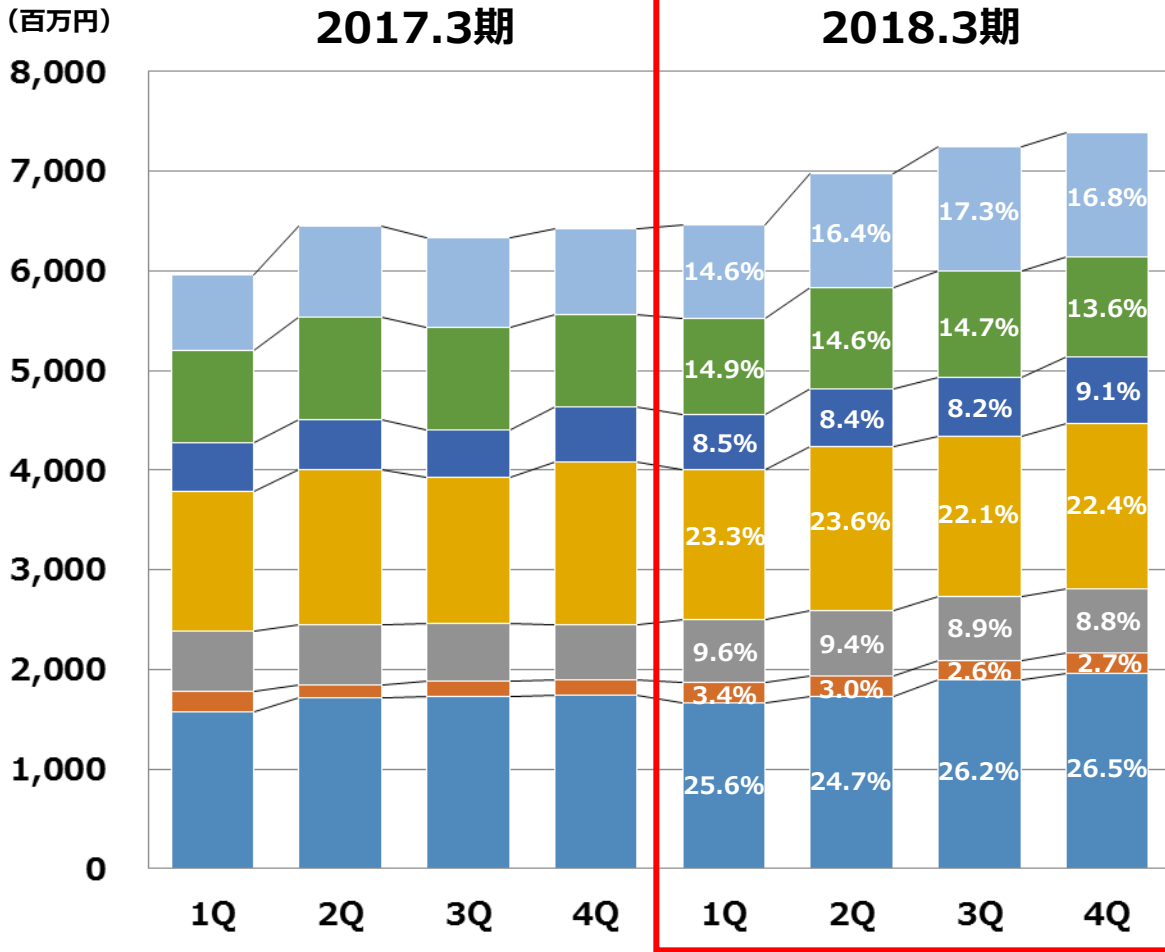


# 空気駆動ポンプは引続き大幅増、定量ポンプ、回転容積ポンプも好調



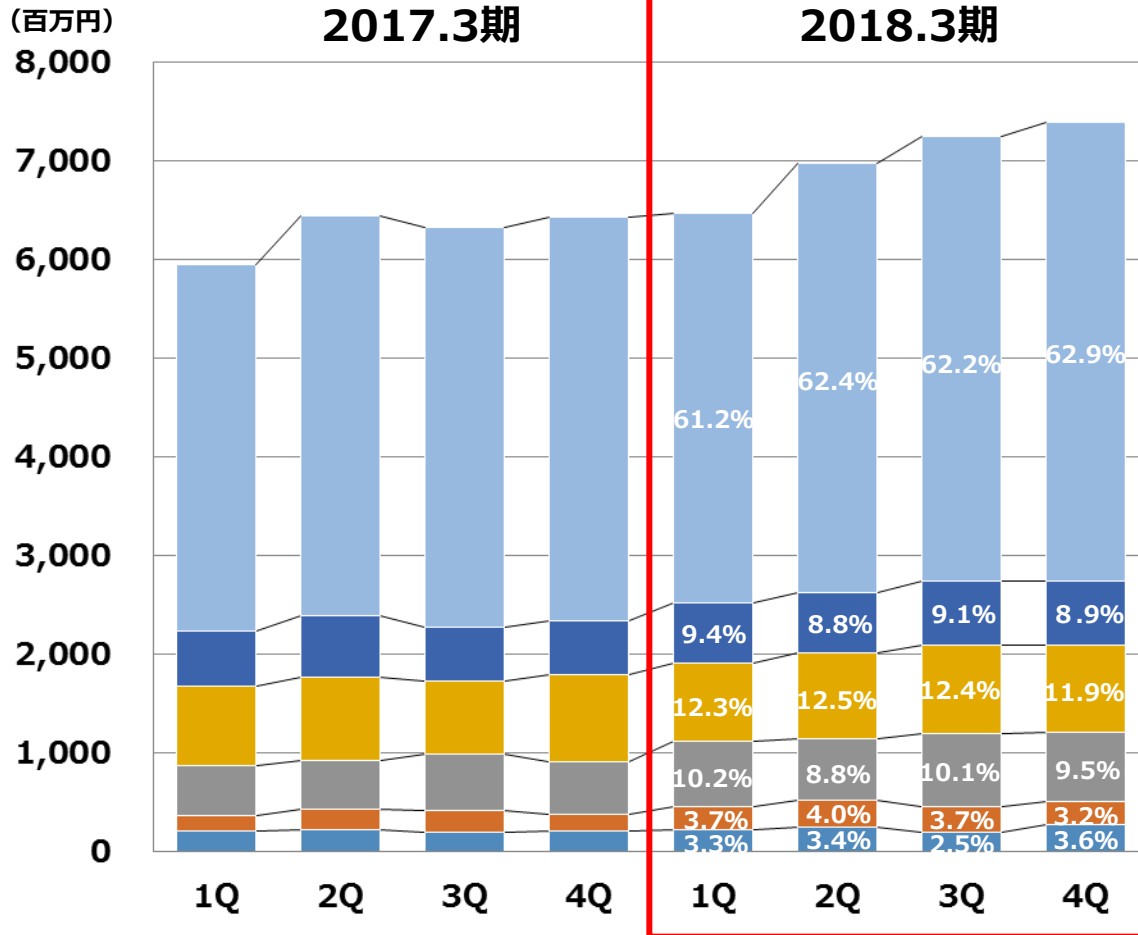
	2018.3期合計金額 (百万円)	変化率 (前年比)
マグネットポンプ	9,408	+7.3%
定量ポンプ	4,989	+10.0%
空気駆動ポンプ	2,885	+45.4%
回転容積ポンプ	2,623	+12.0%
エアポンプ	1,458	+1.5%
システム製品	1,286	+17.8%
仕入商品	2,598	+18.6%
その他	2,816	+0.9%

## 半導体・液晶が大幅増、表面処理装置は好調



	2018.3期合計金額 (百万円)	変化率 (前年比)
■ 半導体・液晶	4,583	+33.9%
■ 医療機器	4,048	+3.6%
■ 表面処理装置	2,401	+18.9%
■ 水処理	6,413	+6.0%
■ 化学	2,570	+9.8%
■ 新エネルギー	815	+25.4%
■ その他	7,233	+7.2%

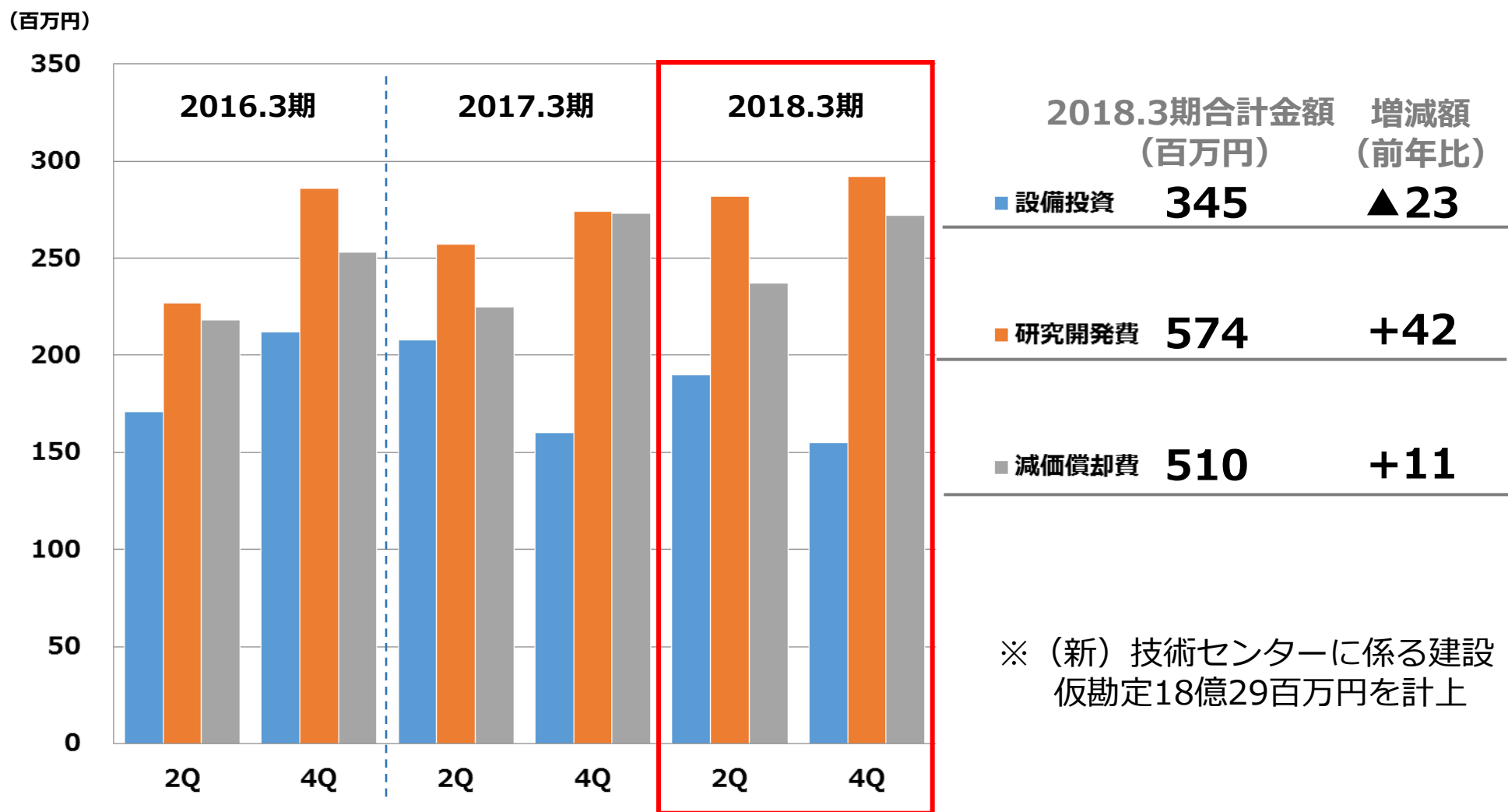
国内、欧、米は堅調、海外は引き続きアジア、中国が好調



	2018.3期合計金額 (百万円)	変化率 (前年比)
■ 日本	17,452	+9.5%
海外計	10,614	+15.2%
■ ヨーロッパ	2,541	+11.9%
■ アメリカ	3,444	+5.2%
■ アジア	2,708	+29.2%
■ 中国	1,021	+33.6%
■ その他	899	+11.6%

海外売上高比率 **37.8%**

# 設備投資・研究開発費・減価償却費推移 (半期毎)





# 2019年3月期 業績見通し

## 半導体・液晶市場、表面処理装置市場向け好調持続の見込み

(百万円)

	2018/3期	2019/3期 (予想)	
			前年比
売上高	28,067	29,427	+4.8%
営業利益	2,106	2,366	+12.3%
(営業利益率)	(7.5%)	(8.0%)	(+0.5pt)
経常利益	2,733	2,804	+2.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,059	2,015	▲2.1%
1株当たり 当期純利益 (円)	275.16	※269.27	▲2.1%
為替レートの (期中平均)			
ドル	112.17	107.00	
ユーロ	126.70	132.00	

※3分割後は89円76銭

## 1 売上高は前年比プラス予想

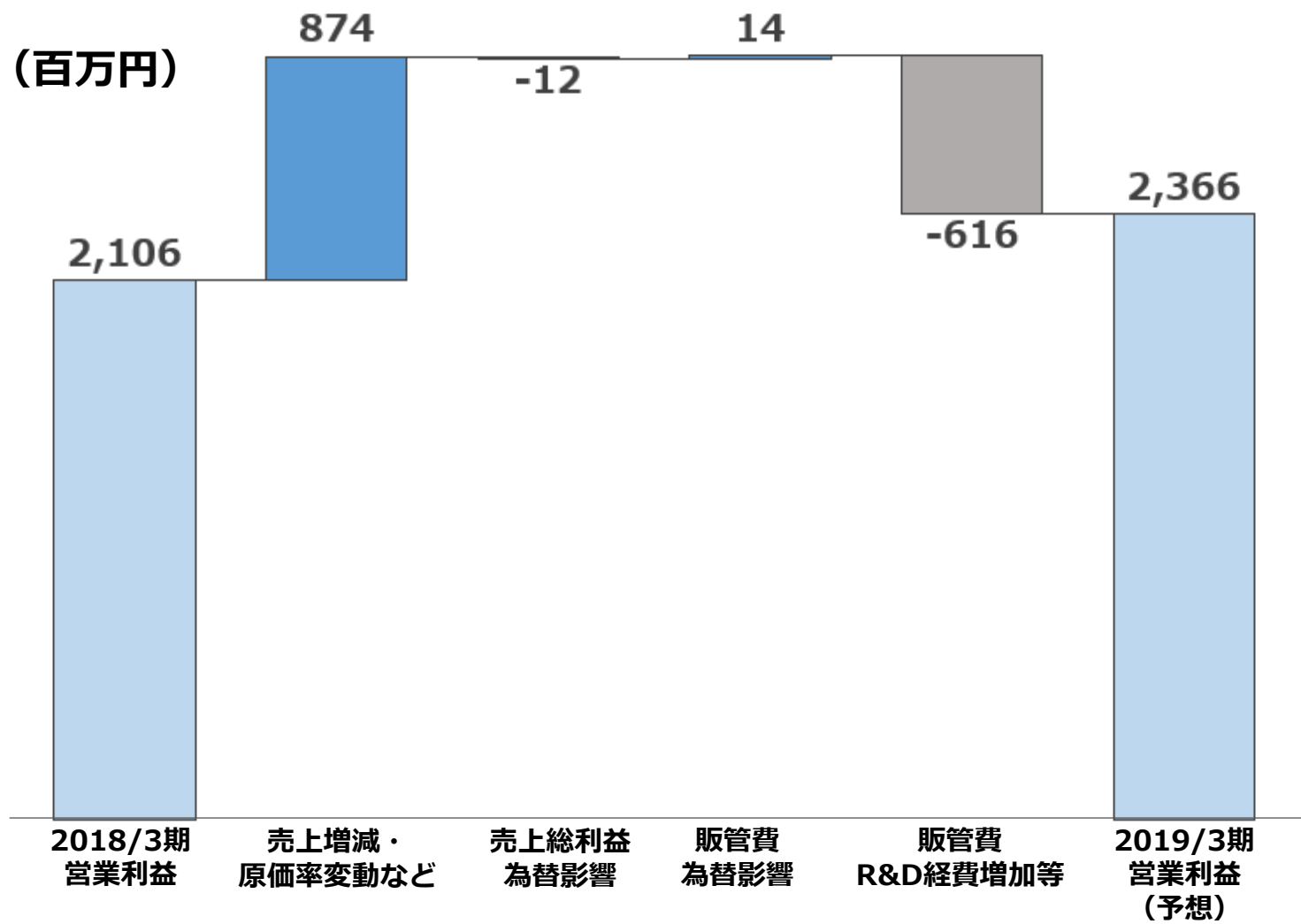
- ✓半導体・液晶市場、表面処理装置市場はアジアの設備投資が持続見込み
- ✓国内及び中国の医療機器市場の需要増の予想
- ✓テクノエコー社の残留塩素計とのシナジー効果による水処理市場が堅調な見込み

## 2 材料費値上げによる原価増を増収効果で吸収し、営業利益は前年比プラス予想

- ✓材料費の値上げによる原価増を増収効果で吸収し、粗利率アップ
- ✓（新）技術センターの竣工により減価償却費約1億計上
- ✓独アハマ国際見本市（6月）の出展費等0.5億、（新）技術センターに係る一般経費0.8億を上期に計上（前年同期比減益要因）
- ✓利益率が良い主力製品のマグネットポンプ、定量ポンプの堅調な伸びを予想

## 3 親株主に帰属する当期純利益は前年比減益

- ✓前期の法人税実効税率を加味し、今期は保守的に見積り
- ✓前年の特殊要因が消え為替差益が減少するもアジア中心に関係会社の好調が続く、経常利益は増益





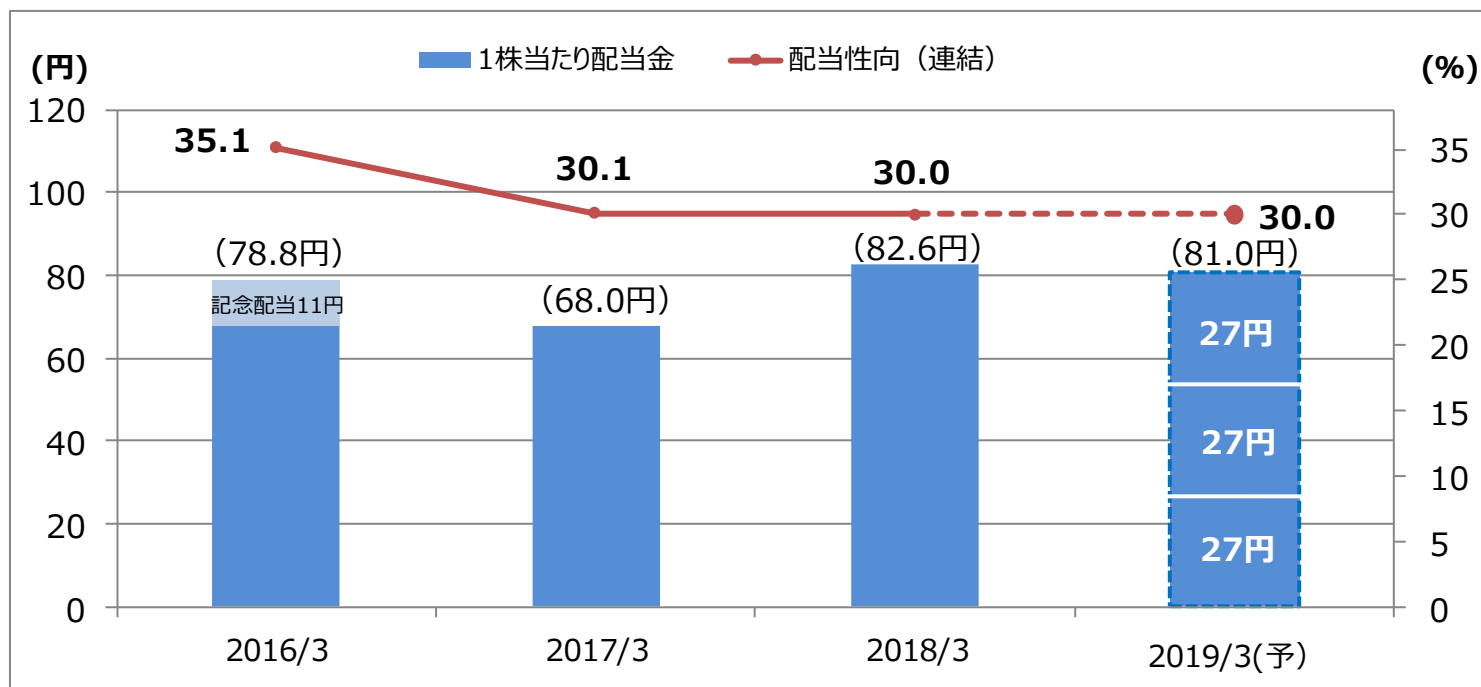
## 【市場環境の想定】

各市場	国内	海外
<b>水処理市場</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水質管理は温浴・水耕・土耕装置が堅調</li> <li>水処理プラントは低調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>滅菌、薬液供給が堅調</li> <li>環境問題でアジア中心に排水処理設備の投資拡大</li> </ul>
半導体・液晶市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>製造装置メーカー向け堅調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジアへの投資が当面は堅調</li> </ul>
<b>医療機器市場</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工透析装置、臨床検査装置、内視鏡洗浄装置向けが堅調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国向け生化学・免疫分析装置が堅調</li> </ul>
<b>新エネルギー市場</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭用燃料電池が横ばいで推移</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二次電池の設備投資が旺盛</li> <li>風力発電の欧州需要拡大</li> </ul>
化学市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>高付加価値製品の開発、製薬会社の投資需要継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国半導体向け純薬設備の投資拡大</li> <li>自動車産業向け化学製品等は堅調</li> </ul>
表面処理装置市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>高付加価値電子部品の需要拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハイブリッドやEV自動車生産増により堅調</li> </ul>

※ 各市場の太字は当社強化市場

## <基本方針>

- ・配当性向30%超
- ・継続的な配当



(注) 2019/3は比較のため、分割前の3倍した配当予想を記載しております。



# 第一期～第二期 中期経営計画について



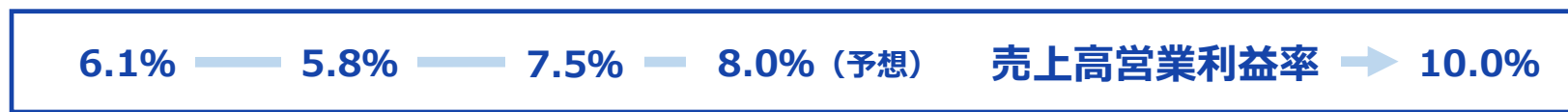
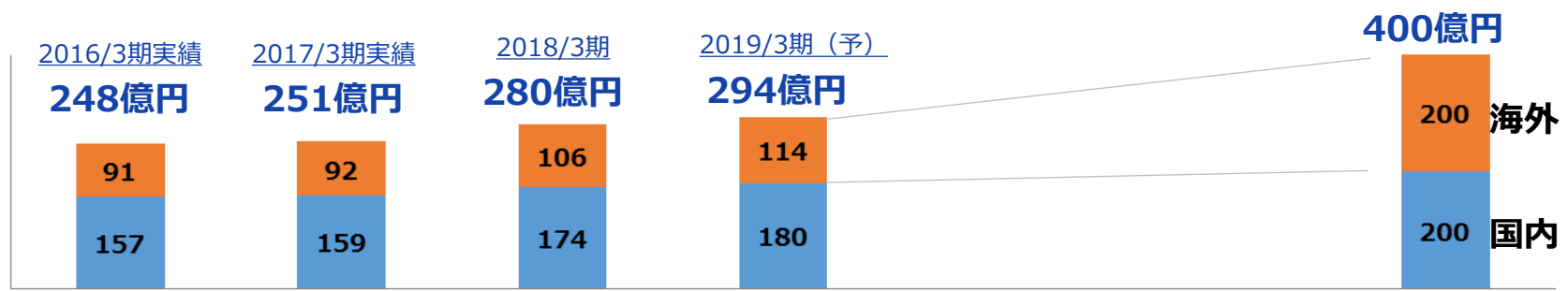
1

# 10年ビジョンの概要



## 連結売上高

定量目標



定性目標

**オールイワキで世界No.1を提供する**  
 ～ グループ一丸となり、世界No.1の**製品、品質、価値、サービス**を提供する ～

**目標を達成するための姿勢「チェンジ&チャレンジ」**  
 ～ 変革と挑戦に躊躇しない企業文化の定着を目指す ～

## 今中期経営計画は、10年ビジョン達成に向けた種蒔期～育成期

### 収益基盤の再構築・整備→仮運用開始

- 10年ビジョン定量目標を達成するための基盤構築・整備→仮運用開始
- 10年ビジョン定性目標に向けてのベクトルの統一化と、「チェンジ&チャレンジ」の企業風土の浸透→各従業員が「チェンジ&チャレンジ」の精神を以て研究・開発・生産・販売・サポートに従事
- 持続的な企業価値向上に視点を置いた経営の推進→RS( 譲渡制限付  
株式報酬制度 )の導入
- 10年ビジョン達成に向けたステップ

【第一期】  
種蒔期

【第一期～第二期 中期経営計画】  
種蒔期～育成期

【第二期中期経営計画】  
育成期

【第三期中期経営計画】  
収穫期

2017/3期

2018/3期

2019/3期

2020/3期

2021/3期

2022/3期

2023/3期

2024/3期

2025/3期

### 3 第一期 中期経営計画の主な進捗状況

		具体的計画の主な進捗状況	達成状況	今後の課題
国内営業		競合のSWOT分析を関連部門で共有化し、リプレイス	○	継続強化
		ソリューションビジネスの定着化のため、システム販売推進メンテナンスとの協業に依り差別化推進	▲	関連部門の連携強化によるIoTの推進 シミュレーションテスト設備の充実化
		市場要求（納期）対応のため、短納期施策を実施	○	対応機種拡大
海外強化市場 （新規事業） 並びに	米国	水処理市場（飲料水・食品業界）の深耕 アクアティック事業※1の深耕	△	コントローラ販売チャネル強化 （アジア・新興国市場）
	欧州	化学・化工機プラント市場深耕、冷却の 需要掘り起し	▲	全欧州にIE※2の販売戦略の浸透
	アセ アン	アセアン共通モデルの投入、統括本部設置と 域内物流コントロール拠点の構築～整備	×	整備～運用フェーズへ 強化市場を継続推進
	中国	医療機器市場を開拓	△	新エネルギー・水処理市場安定化
投資		IE※2生産設備投資実施、中国生産委託会社の開拓及び 部材調達を拡大	△	IE※2の設備投資を継続。中国での 委託会社開拓と部材調達拡大を継続
		業務提携、ポンプ周辺事業のM&Aを推進	▲	継続に検討中

※1：小型魚類飼育水槽システム

※2：IWAKI Europe GmbH（欧州子会社）

達成率

○：70%以上 △：70%未満～50%以上

▲：50%未満～20%以上 ×：20%未満

# 第一期～第二期 中期経営計画（2018/3期～2020/3期） （当初計画値との差異、変更点）

(百万円)

	2018/3期	2019/3期(予算)			2020/3期(計画)		
	実績	※当初計画値		前年比	※当初計画値		前年比
売上高	28,067	28,124	29,427	+4.8%	29,860		
売上総利益	9,409	9,744	10,271		10,678		
営業利益	2,106	2,261	2,366	+12.3%	3,075		
経常利益	2,733	2,689	2,804	+2.6%	3,501		
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,059	1,996	2,015	▲2.1%	2,548		

精査見直し予定

※当初計画値：2017年11月29日公表

- 1 今期は、半導体・液晶市場が好調な見通しのため、当初計画比売上高は増加。来期も増収効果に加え粗利率の高い子会社の好調な増収計画により、営業利益率は上昇の見込み
- 2 今期は、種蒔期の最終年度であり、アクアティック事業、海外生産体制強化の先行投資や研究開発部門の人員強化を予定
- 3 今期は、半導体・液晶市場の好調な見通しを反映し、アジアの関係会社の業績も好調の見込み

### 基本方針 1

#### 強化市場への経営資源の優先投入

- ・ 水処理市場 → テクノエコー効果・活用
- ・ 医療機器市場 → 海外新規OEM・新製品
- ・ 新エネルギー市場 → 二次電池製造・大型蓄電池設備

### 基本方針 4

#### 海外戦略地域の統括運営

- ・ アセアン地域プロジェクト → 次のステージへ推進
- ・ 欧州地域 → 準備期間
- ・ ITインフラ整備 → 早急な対応が必要

## 10年ビジョン達成

### 基本方針 2

#### 課題解決型ビジネスの展開

- ・ 顧客対応力の強化 → 短納期プロジェクト・IoT対応
- ・ 顧客情報の統合 → 営業情報とメンテナンス情報
- ・ システム展開 → 事業と技術の幅を広げる

### 基本方針 3

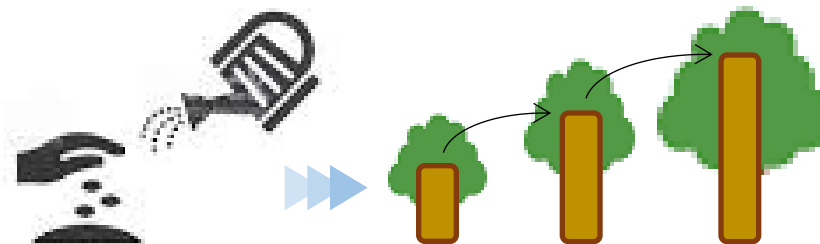
#### 新規事業のビジネスモデル構築

- ・ アクアティックプロジェクト → 米国市場拡大
- ・ 海外システム・メンテナンスの推進  
→ 欧州地域にモデル構築・事業化研究
- ・ 中国調達拡大 → 生産委託の活用と地産地消



## 国内営業

- 競合リプレイス需要の獲得（CSの向上）
- ソリューションビジネスの定着化と深耕
- 市場要求(製品、部品、納期等)対応
- 顧客向けIOTの推進



## 海外各市場における強化市場（新規事業及び注力市場）

- 米国…水処理、医療機器、（アクアティック事業、化学・化工機プラント）
- 欧州…水処理、化学・化工機、冷却、（アクアティック事業）
- アセアン…水処理、表面処理装置、化学、医療機器、（アクアティック事業）
- 中国…医療機器、新エネルギー、水処理
- 韓国・台湾地域…水処理、新エネルギー

## 投資について

- 欧州子会社生産設備の強化、中国生産委託会社の拡大、物流関連強化
- 事業の拡大に向けた業務提携、M&Aの検討

# 7 TEC (テクノエコー) とのシナジー効果

電磁定量ポンプ  
当社



テクノエコー  
残留塩素計



## 既存市場の拡大

- オリンピックに向けホテル建設ラッシュ
- 温浴施設での残留塩素計の需要拡大

ユーザー(お客様)



クロスセルを展開  
シナジー効果

## 新たな市場での実績

- 小型残留塩素計
- 福祉市場 (介護風呂) の需要拡大
- 医療機器市場 (医療機器組込型) の需要増

## 部材調達を拡大

- 中国国内での部材調達を拡大中
- 製造原価ダウンと日本同等品質の維持



## 生産委託会社が本格稼働

- 生産委託を2018年夏に稼働開始
- 地産地消の推進



流通経路の簡略化による納期短縮

## グローバルモデルの立案・推進

- グローバルモデルの開発推進
- 米国と日本の役割分担の明確化
- 開発導入製品のグローバル市場投入



## 分業と協業化

- 米国と日本市場における情報の共有化
- 使用可能部材の共有化
- 日本、米国以外の市場へ参入



## 日本市場の拡大

- 医療・医薬分野での応用
- 米国技術のフィードバック ▶▶▶ 国内外の競合他社製品との差別化



## 参考情報

## 1 投資単位当たり金額引き下げ、流動性アップのため、株式分割

✓最低投資金額の引き下げ、流動性向上のため、株式を3分割

- ・2018年6月30日（土）（実質的には6月29日）基準日
- ・2018年7月 1日（日）効力発生日
- ・発行済み株式数7,484,370株→22,453,110株

## 2 譲渡制限付株式報酬制度の導入

✓中長期視点での企業価値の持続的な向上を図る

✓株主との価値共有を進める

# 免責事項及び将来見通しに関する注意事項

- この資料は投資家の参考に資するため、株式会社イワキ（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、2018年5月25日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

## 【お問合せ先】

E-mail : [ir@iwakipumps.jp](mailto:ir@iwakipumps.jp)  
TEL : 03-3254-2931  
受付時間 : 9時～17時30分